

ステップアップ教室で使う略語・用語集

生殖補助医療（ART）

不妊症の診断、治療において実施される人工授精、体外受精・胚移植、顕微授精などの専門的で、かつ特殊な生殖医療技術の総称。

体外受精（IVF）

配偶子（卵子と精子）を体内から取り出し、同じ容器内で培養し受精させること。

適応・・・卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊（原因不明不妊）など

顕微授精（ICSI）

顕微鏡下で卵子内に細いガラス管（マイクロピペット）を用いて、一個の精子を直接注入し受精させる方法。

適応・・・受精障害（体外受精で受精が起こらない）の症例、極度の乏精子症、精子無力症

胚（embryo）

分割した受精卵のこと。

媒精（insemination）

精子と卵子を受精させること。

胚移植（embryo - transfer）

体外受精により、ある一定の時期まで体外で発育させた胚を母体の子宮腔に移植する操作のこと。

胚の凍結保存（cryopreservation）

胚を液体窒素中に凍結保存しておくこと。半永久的に保存可能。

卵巣過剰刺激症候群の危険性がある場合や子宮環境が胚移植に適さない場合に採卵周期とは別の周期に移植したい、あるいは良好な余剰胚を保存しておく場合などが適応となる。

凍結融解胚移植（cryo - ET）

採卵周期とは別の月経周期に、凍結胚を子宮内膜のタイミングと合わせて融解し、子宮腔内に移植すること。自然周期胚移植とホルモン補充周期胚移植の2種類がある。

自然周期胚移植

自然排卵を確認後に融解した胚を移植する方法。凍結胚が受精後何日目の胚かによって、排卵日から何日目に移植するのかを決める。

ホルモン補充周期胚移植（HRT-ET）

卵胞ホルモンと黄体ホルモンを投与し、子宮内膜を着床しやすい状態にして、凍結胚を融解し移植を行う方法。

胚盤胞移植（blastocyst-transfer）

受精後5 - 6日目まで体外培養した胚盤胞期胚を子宮腔に戻す方法。

胚盤胞培養（blastocyst-culture）

受精後3日目まで培養し、その後、異なる組成の培養液において継続培養し胚盤胞期胚まで発育させること。

ストリクト・クライテリア（Kuruger's strict criteria）

精子を染色し、精子頭部形態を精密に観察する方法。頭部形態の分類にはクルーガーらの基準（strict criteria）を用いて正常形態率を測定する。正常形態率4%以上が良好とされる検査である。

アシステッドハッチング（Assisted Hatching ; AHA , 受精卵孵化補助法）

胚の透明体の一部に穴を開ける処置を施した後に胚移植を行い、胚の透明体からの脱出（孵化, hatching）を補助し、移植胚の着床率を高める方法。* 胚は胚盤胞に達する過程で、透明体を伸展・非薄化し脱出したのち子宮内膜に着床する。

卵巣過剰刺激症候群（OHSS）

排卵誘発の過程、特にhMG-hCG療法の過程で、多数の卵胞発育とその後の急速な黄体化によってエストロゲンが著しく上昇する結果、卵巣腫大や腹・胸水貯留、血液濃縮（重症例では血栓症）などを引き起こす状態。多嚢胞卵巣症候群に対するFSH(hMG)-hCG療法後は発症しやすく、また妊娠すると重症化しやすい。